令和7年度 栄養塩情報第2号(令和7年11月19日)

- 漁業指導調査船岩手丸が実施した11月(10月29日~11月5日実施)の海洋観測結果によると、0海里表面での栄養塩濃度は 4.7~17.0 µg/L でした(図1)が、黒埼は低気圧の通過後の観測であったことから、時化により栄養塩が豊富な低層の海水との混合が進み、最も高い値になりました。
- 岩手丸の観測データと栄養塩の実測値を基に、50 日先の 11 月(図2)および 12 月(図3)におけるワカメ養殖漁場の栄養塩が 20 μ g/L **を超える確率を予測したところ、黒埼 100 %、トドヶ埼 0 ~ 95 %、尾埼 0 %、椿島 0 ~ 86 % となりました。
- (※ワカメ種苗の巻き込み時に必要とされる栄養塩濃度)
- ・ 尾埼は12月も確率は 0%となりました(栄養塩の実測値が 75 m深においても 13 μ g/L 台と低い値であったため、確率が低く計算された)が、11月上旬の低気圧通過による時化により混合が進み、11 月 11 日の船越湾吉里吉里漁場における栄養塩の実測値は 35.2 μ g/L となっており、現在は尾埼周辺でも 20 μ g/L を超えていると考えられます。
- ・トドヶ埼では11月下旬から、椿島では12月中旬以降からと、遅い時期に 20 μ g/L を超える予測となりましたが、 尾埼と同様の理由で現在の栄養塩は 20 μ g/L を超えていると 考えられます。
- 各漁協で測定している前浜の栄養塩情報を確認して、ワカメ種苗の巻込み作業を行ってください。

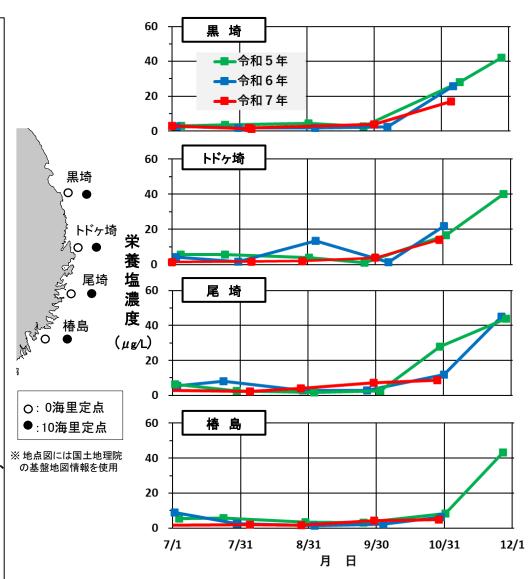


図1 0海里における表面の栄養塩濃度の推移

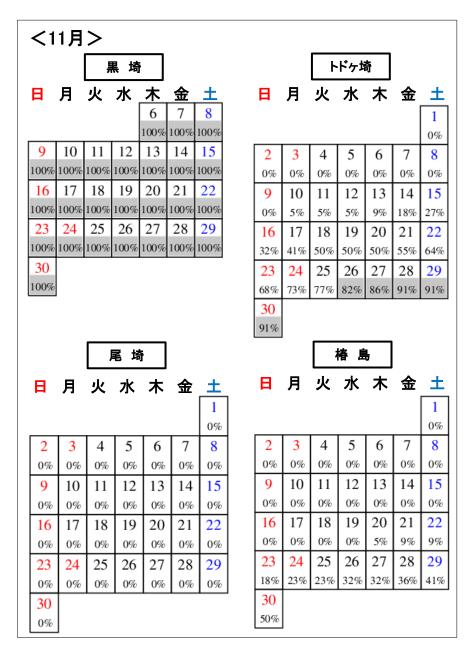


図2 栄養塩が20 µg/L以上となる確率(11月予測結果)

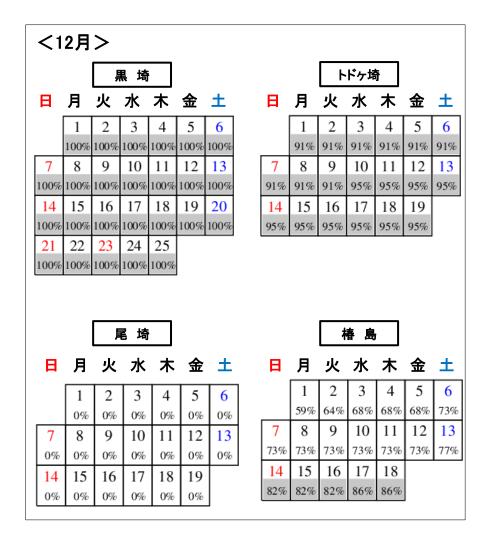


図3 栄養塩が20μg/L以上となる確率(12月予測結果)

※栄養塩供給予測のためのソフトウェア開発は、農林水産省農林水産技術会議による「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」による成果です。

※本予測は、岩手丸の海洋観測日(採水日)から50日先まで可能です。

発行:岩手県水産技術センター漁場保全部・髙木

TEL: 0193-26-7919